

今日のトピック インド株式市場は最高値を再び更新（2019年4月後半） 好決算や総選挙での与党勝利観測が押し上げ要因に

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	4月16日	1週間	1カ月	6カ月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.61	0.3	▲0.3	5.3	▲1.6
ルピー/米ドル (ルピー)	69.61	0.5	0.7	▲5.3	6.3
金利 (%)					
政策金利	6.00	0.00	▲0.25	▲0.50	0.00
10年国債利回り	7.39	0.01	0.05	▲0.48	▲0.10
株式指数					
SENSEX (ポイント)	39,275	0.9	3.3	11.7	14.5

(注) データは2019年4月16日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

(ポイント)

【インドの株式、通貨】

(ルピー/米ドル)



(注1) データは2018年4月16日～2019年4月16日。

(注2) ルピー/米ドルは逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント1 株式市場は再び最高値更新

良好な企業決算や総選挙での与党勝利観測などを背景に海外資金が流入

- インド株式市場は、代表的な株式指数のSENSEXが4月16日に過去最高値を再び更新するなど、堅調な展開が続いています。米国などの海外株式が総じて上昇したことに加え、大手IT企業の良好な決算や11日から投票が始まった総選挙（最終結果発表は5月23日）での与党勝利の観測などが背景です。4月の海外投資家の買い越し額が15日までで約7億米ドルとなるなど、海外からの資金流入が継続し、相場を押し上げています。また、インド気象庁が今年のモンスーン（6月～9月）の降雨量が平年並みとなるとの見通しを示し、農産物の生産が順調に進むとの観測が広がったことも相場の支援材料になったとみられます。

ポイント2 インド準備銀行総裁は12日の講演で景気重視姿勢を示唆

- インド準備銀行（RBI）のダス総裁は12日に行った講演の中で、新興国経済全般に関することとしながらも、金融政策は実体経済、貨幣、金融の安定に資するものでなければならないとの見解を示しました。この講演に加え、足元で景気減速が顕在化していることや、12日に発表された3月の消費者物価が前年同月比+2.9%とRBIのインフレ目標（+4±2%）の中央値を下回っていることから、市場の一部では早ければ次回（6月6日）の金融政策決定会合で追加利下げが実施されるとの観測も出ています。

今後の展開 選挙情勢に引き続き注目

- 今後は、4月11日から投票が始まったインドの総選挙が、相場の材料として引き続き注目されそうです。株式市場を巡る投資環境は基本的に良好とみられますが、株価上昇に伴いバリュエーション面では割安感が乏しいことから、悪材料に反応しやすい点には注意が必要だと思われます。

* 三井住友アセットマネジメントと大和住銀投信投資顧問は4月1日に合併し、三井住友DSアセットマネジメントになりました。

**ここも
チェック!**
2019年4月 5日 インド株式市場は最高値を更新（2019年4月前半）
2019年3月20日 最高値更新が見えてきたインド株式市場（2019年3月後半）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。